

新潟県上越市にある「ソーシャルファーム ドリーと緑の風」は、一般社団法人 土の香工房が運営する就労継続支援(A型・B型)事業所であり、知的障害、精神障害者を中心とした約10名が就労している。取組開始(平成27年度)以来、えだまめやハーブ、さつまいも等の生産を行い、平成30年度からは、加工所を整備してえだまめやハーブを用いた加工品の製造を通年でやっている。一次加工品を地元企業へ提供することにより、安定的な収益を確保し、障害者の就労拡大を図っている。

基本情報

- 所在地:新潟県上越市
- 団体名:一般社団法人 土の香工房
- 取組パターン:福祉完結型
- 選定表彰:
令和2年度 県優良農業経営体等表彰式
「農福連携の部」で県知事賞を受賞
- 主力商品:
えだまめ、ハーブ、干しいも、長ねぎ、しそジュースキット

取組の概要

- ◆ 認定農業者を取得して農地約65aにおいて、えだまめとハーブ、さつまいも、長ねぎ等を生産。障害者は、栽培管理や収穫、加工等の作業に従事。干しいも等の加工品も好調に販売している。
- ◆ 新潟県上越市は、平成27年度から、地域ブランド「メイド・イン上越」を構築することで、農産品の販売を通じた地域活性化に取り組んでいる。その一環として、えだまめを原料とした菓子等の特産品を開発し、令和2年度から、新商品として枝豆スナックの販売を地元直売所で始めた。今後は自家栽培した野菜を使用した加工品の開発、販売の6次産業化を推進していく。
- ◆ えだまめの加工所は、平成30年度「農山漁村振興交付金」を活用して新設。

加工作業の様子



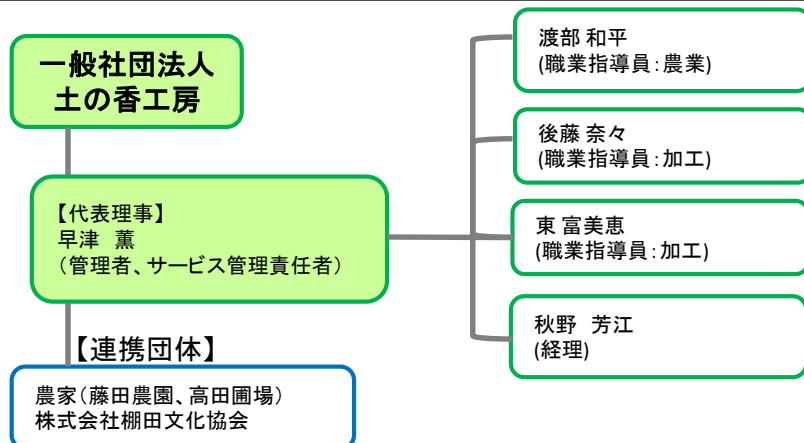
枝豆スナック



地域ブランドのPR



体制図



取組の成果

- ◆ 加工所の新設に加え、新事業として地元農協と連携し、高田地区の農業者を対象としたえだまめ選果場のサテライト施設として1次選果を行っている。
- ◆ 事業の展開として、A型事業の定員を10名、B型事業の定員を10名にし、様々な障害者が働く場所の創出に貢献。
- ◆ 製粉やペーストを活用した新商品を開発することで、地域ブランドとしてのえだまめの消費拡大に寄与する。

所在地▶新潟県上越市丸山新田183-1

連絡先▶TEL:025-546-7127 FAX:025-530-7708

E-mail:info@tsuchinokakoubou.org

ウェブサイト▶<https://www.tsuchinokakoubou.org>

【取組のプロセス】

2015年～

地元農家の高齢化
と耕作放棄地の増加

きっかけ

○障害者就労継続支援A型事業所
「ソーシャルファームドリーと緑の風」を定員10名でスタートさせた。

2015年～

福祉分野と農業分野の両面での対策の必要性を感じる

○就労継続支援A型事業所を立ち上げるにあたり、事業の中心を地場産の野菜や果物の乾燥を主とした加工事業に決定。同時に自家栽培も行い栽培したもので、6次加工化という考えで行いたいと思った。地元では農家の高齢化が進み、耕作放棄地も増えている現状もあり、そういった場所も活用したいと考えていた。そこで障害のある方々や働きづらさを感じている人達の新たな仕事、活動の場として「農業」が必要であると感じ、計画的に事業を広げていこうと思った。



さつまいもの収穫

2019年～

上越市の農業計画
が策定される

地域課題の一役を担う

○今後10年の新たな上越市の農業分野での計画の中に、えだまめ栽培の増産・消費拡大が計上され、私達もこの計画に関わりたいと思った。その為に利用者定員を拡大し、えだまめの加工所、農作業所の建設の為に農山漁村振興交付金を活用し、事業の拡大を図った。

○2021年からは、高田地区のえだまめ選果場として、JAえちご上越より作業委託を受け、選果作業を実施している。

○2023年2月からは、より様々な障害を抱える方々の活動の場になることを目指して、就労継続支援B型事業を開始。



えだまめの加工の様子①



えだまめの加工の様子②

今後の
展望

誰もができる農業の仕組み

○OGAPの取得や栽培品種の選定、通年安定して提供ができる作業の確保等を通して、安定した収入確保と、障害特性に関わらず、障害を抱える方々が誰でも分かりやすく、作業しやすい農作業施設設備の仕組みづくりを考えていきたい。

○自家栽培した枝豆等様々な野菜を自社で加工して販売する6次産業化を更に推進していきたい。より商品開発に力を入れていく。



えだまめの手もぎの様子